

たていし 立石遺跡で発見された土偶の出土数は 300 点を超え、全国で

の他の遺跡と比べてみても非常に多く出土しました。出土した
どぐう 土偶の多くは縄文時代後期 (約 4,000 ~ 3,000 年前) に属する
じょうもんじだいこうき もので、配石遺構はいせきいこうが作られた時期とも重なります。配石遺構の
周辺から土偶が多く出土しているため、配石の周りで土偶を
どぐう 使った祭祀さいしが行われていたのかもしれない。

みみがた はながた 耳形・鼻形土製品には、紐ひもを通したと思われる穴があいてい
ます。同様の遺物は、北上市・八天遺跡はってんでも出土しており、ほ
くちがた かに口形の土製品もみられます。これらは、おそらく皮や布な
どに結びつけて、仮面かめんのように使ったのでしょう。この遺物の
出土例は全国でも数える程度です。

そのほか、イノシシ形土製品も昭和 27 年と昭和 52 年に 1 点
ずつ出土しています。昭和 27 年出土の方は成獣せいじゅうのオスを模し
ていますが、昭和 52 年出土の方は幼獣ようじゅう (ウリ坊) のようでもあ
り、まるで親子のように見えます。

みみがた はながた これらの耳形・鼻形・イノ
シシ形土製品は現在、花巻市
していゆうけいぶんかざい 指定有形文化財 (考古資料)
こうこしりょう となっています。



イノシシ形土製品 (左 昭和 27 年度内川目小学校拡張工事時出土)
(右 昭和 52 年度調査)